

車駆巡天下

峯雲先生

弊社、早崎女史がNHK・BSで見た「地獄の中国ドライバー」。中国の貨物輸送ドライバーの数は、約3千万人。八〇%は農村出身者。また七〇%はひとり社長でやっていて、苛酷な荷物の獲り合い、保証なしの生活、貧困に落ちる危険。そしてコロナウイルスの影響に振り回されている現在のドキュメンタリー映像が流れたそうです。しかしここで感心したのは、漢詩の伝統だと言っている。

一介の大型トラック運転手、「肖 紅兵」さんが作った詩。

一台の車で天下を駆け巡り

世界を我が家として愛する

天は高いが指で弾けるくらい近い

崖は深く雲に寄りかかりながら走る

行く先では故郷の方言がほとんど聞こえない

夢の中で家に帰ろう

「ここには杜甫の血脈がある。日本のドライバーにこの雄大さがあるか！ この日本語訳は誰がしたのか知らないが味気ない。迫力がない。だれか原語の漢詩（絶句）を探しなさい」と来たもんだ。さらば花鳥風月だとき。

峯雲先生、漢詩に直してください。粕谷 拝。

横山 峯雲

粕谷隆夫大人殿

お世話様です。

大人殿は漢詩について、まったく認識を間違えています。少なくとも唐詩や宋詩などの漢詩は、日本で言えば、源氏物語などの古文と同じで、現代の中国人は、読んだり作ったり、理解したり出来ません。すでに、現代中国人は本来の漢字を使っていないし、意味が分かりません。

漢詩は現代中国語ではないので、日本人が古文を学ぶのと同じで、学校で学んでいるほどもです。さらに、漢詩は平仄（漢詩作法における平字・仄字の韻律に基づく配列のきまり）という規則があつて、現代の中国人でも簡単に作れるものではありません。



峯雲も漢字の平仄は不明なので、平仄を無視して作らざるを得ません。したがって、この運転手が本来の漢詩を作成したとの話は疑問です。おそらく、日本における現代詩や和歌のようなものではないかと思えます。敢えて漢詩風にすれば左記になりますが、あまりにも風情や意味もないので、「水源地」に掲載するのはどんなものか。ただ漢詩と現代中国語の違いを味わうのも一興か。

絶望運転手

肖 紅兵

車駆巡天下

車天下を駆巡し

愛世界我家

世界を我家として愛す

天高指弾近

天高くして近に指弾し

崖深雲寄走

崖深くして雲に寄りて走る

行郷言不聞

行きて郷言聞かず

夢中欲帰家

夢中にて家に帰らんと欲す



イラスト (C) 草野 義彦